

## 事業所運営における確認事項

## 1 受給資格の確認と事業者指定

※中野区に住んでいても、住民票を異動していないことがあるため、必ずご確認ください。

被保険者証の記載		地域密着型通所介護 認知症対応型通所介護	総合事業 （通所型）
保険者	住所		
中野区	中野区以外	指定手続き不要	指定手続き不要
中野区以外	中野区	指定手続き不要	指定手続き不要
	中野区以外	利用者ごとに、保険者へ指定手続き必要 保険者市区と中野区との同意協議あり	指定手続き必要

## 2 総合事業について

## (1) 総合事業のコード

平成 30 年度から、中野区の国相当基準のサービスは、訪問は A 2、通所は A 6 のコードとなります（A 1 及び A 5 はなくなります）。

※他保険者の対応は異なります（すべて A 3、A 7 へ移行する保険者もあり）。

## (2) 総合事業の報酬

中野区の平成 30 年 4 月以降の総合事業の報酬単位数は変更ありません（平成 30 年 9 月まで）。

## 3 事故報告の状況（中野区へ提出分：通所介護、地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護）

区外事業所からの報告を含みます。

	怪我	骨折	死亡	誤与薬	行方不明	感染症	職員の 行為	その他	合計
平成 29 年度 (1 月まで)	5	11	2	5	5	0	2	2	32
平成 28 年度	9	9	1	4	4	1	1	5	34
平成 27 年度	5	6	2	2	2	0	0	0	17

○職員の行為の例：個人情報記録を紛失、FAX の誤送信、サービス記録の消失（システム）

次のような事故にも注意が必要です。

- ・ 利用者の徘徊、行方不明
- ・ 誤与薬事故により、生死にかかわることもあることに注意が必要  
他人の薬や違う薬を服用、時間や指示量誤り、服薬忘れ等により重大事故につながる危険性
- ・ 送迎中や外出レクリエーション中の転倒
- ・ 介護職員の医療行為（痰吸引、インシュリン注射等） ←不適切な介護

#### 不適切な事例

- (1) 事業所独自の判断で、ヒヤリ・ハットで済ましている
- (2) 再発防止に向けた今後の取り組みについて検討していない  
再発防止策は、事故発生後速やかに話し合いをもち、原因分析を十分に行った結果、実行していく再発防止策を具体的に報告書に記入してください。また、検討した内容を職員へ周知し、共通認識を持つことが大切です。
- (3) 事業所所在地の区市への報告は行っているものの、利用者の保険者に報告していない

#### 4 苦情等の事例（通所介護、地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護）

##### 1. 家族から

- ・ 利用者徘徊に事業所が気づかない。
- ・ ドライバーの都合でサービス提供時間中に帰宅した。
- ・ 事業所が、利用者に対し事業所の運営法人への寄付を募っている。利用者という特定の立場の者に対して寄付を募ることは、問題があるのではないか。

##### 2. 近隣住民から

- ・ 近隣の事業所が近隣住民の通行の妨げになるような行為をしているため、非常に困っている。
- ・ デイサービスの車が狭い道に停まっていたため、「狭い」と言ったら、怒鳴られてしまった。
- ・ 事業所はゴミだしのルールを守ってほしい。
- ・ カラオケやダンスなどの催し物の音が毎日聞こえてうるさい。事業所に訴えたが、改善されない。

##### 3. 従業員から

- ・ 事業所に実地指導に入ること、上司からの指示で通常作成すべき書類をあわてて作成している。
- ・ 個別機能訓練加算算定にあたり、利用者宅へ居宅訪問すべきところ、やっていない。

※東京都国民健康保険団体連合会のホームページから、苦情の概要や傾向を検索できるシステムが掲載開始されました。今後の業務遂行にご活用ください。

掲載場所      介護事業所等の皆様      > 介護サービスに係る苦情検索システム

## 5 養介護施設従事者等による高齢者虐待の防止

(厚生労働省) 平成27年度高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果(平成29年3月21日発表) 一部引用一部改変

### (1) 相談・通報者

相談・通報者1,922人(1件の事例に対し複数の相談・通報があった場合は、重複して計上)のうち、「当該施設職員」が420人(21.9%)で最も多く、次いで「家族・親族」が385人(20.0%)であった。(複数回答)

### (2) 虐待の発生要因(市町村の任意・自由記載を集計)

「教育・知識・介護技術等に関する問題」が246件(65.6%)で最も多く、次いで「職員のストレスや感情コントロールの問題」101件(26.9%)、「虐待を行った職員の性格や資質の問題」38件(10.1%)であった。(複数回答)

### (3) 過去の指導等(市町村の任意・自由記載を集計)

虐待の事実が認められた408件の施設・事業所のうち、47件(11.5%)が過去何らかの指導等を受けていた。指導の多くはサービス提供に係る指導であったが、過去にも虐待事例が発生していたケースが28件あった。

### (4) 虐待の内容

養介護施設従事者等による被虐待高齢者の総数778人のうち、虐待の種別では、「身体的虐待」が478人(61.4%)で最も多く、次いで「心理的虐待」215人(27.6%)、「介護等放棄」100人(12.9%)であった。(複数回答)



### 組織としての虐待の未然防止・早期発見のための体制づくりが必要

高齢者虐待に至る原因は多岐に渡りますが、その原因を職員個人の問題とはせず、組織として課題をとらえ取り組むことが大切です。

リスクマネジメントの見地や職員が燃え尽きないためにも、日ごろの業務の中で悩みや相談を受け止めたり、介護技術に対してアドバイスができる体制を整備するとともに、職員の労働条件の改善にも留意する必要があります。

※以下の行為も高齢者虐待に該当するとされています。

(参考) 要介護施設従事者等による高齢者虐待例一覧

□入所者を車いすやベッド等から移動させる際に、必要以上に身体を高く持ち上げる。

□食事の際に、職員の都合で、本人が拒否しているのに口に入れて食べさせる。

□車椅子やいすからずり落ちたり、立ち上がったたりしないように、Y字型拘束帯や腰ベルト、車椅子テーブルをつける。

□排泄の失敗や食べこぼしなど老化現象やそれに伴う言動等を嘲笑する。

□トイレを使用できるのに、職員の都合を優先し、本人の意志や状態を無視しておむつを使う。

□裸になった入所者の姿を携帯電話で撮影し、他の職員に見せる。

虐待の芽チェックリスト(通所サービス版)も従業員研修等にご活用ください。

## 6 制度改正（主なもの）

概要は、(厚生労働省ホームページ)社会保障審議会介護給付費分科会(2018年1月26日開催)、参考資料1をご確認ください。

### ①通所介護、②地域密着型通所介護、③認知症対応型通所介護

- (1) 生活機能向上連携加算の創設 ①②③
- (2) 心身機能の係るアウトカム評価の創設 ①②
- (3) 機能訓練指導員の確保の促進 ①②③  
一定の実務経験を有するはり師、きゅう師を追加
- (4) 栄養改善の取組の推進 ①②③
- (5) 基本報酬のサービス提供時間区分の見直し ①②③  
サービス提供時間区分を1時間ごとに見直し
- (6) 運営推進会議の開催方法の緩和 ②③（7で説明）

## 7 運営推進会議（地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護）

各地域密着型サービス事業者が、利用者、市町村職員、地域の代表者等に対し、提供しているサービス内容等を明らかにして、事業者による利用者の「抱え込み」を防止し、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質を確保することを目的として、自ら設置すべきもの。

### 《構成員》

利用者、利用者の家族、地域住民の代表者（町内会役員、民生委員、老人クラブの代表等）、市町村の職員又は地域包括支援センターの職員、知見を有する者（客観的、専門的な立場から意見を述べることができる者）

アンケートにご協力いただいた56事業所の回答の概要については、資料3及び資料3別紙のとおり（実施期間2018年1月9日～2月8日）。

### 運営推進会議の開催方法の緩和（平成30年度から）

運営推進会議の効率化や、事業所間のネットワーク形成の促進等の観点から、複数の事業所の合同開催について、以下の要件を満たす場合に認めることとする。

- (1) 利用者及び利用者家族について匿名とするなど、個人情報・プライバシーを保護すること。
- (2) 同一の日常生活圏域内に所在する事業所であること。

※日常生活圏域とは、中野区では、各すこやか福祉センターの4つの圏域です。

### 《参考：地域の居場所》

**認知症カフェ：** 中野区ホームページから

ホーム>くらし・手続き>健康・福祉>健康・医療>認知症支援事業>認知症支援事業「家族介護教室、家族会、認知症カフェ等のご案内」

**まちなかサロン等：** 中野区社会福祉協議会のホームページから

・TOPページ⇒まちなかサロン⇒社会資源情報カード

### 地域の居場所情報一覧2017

検索サイトで「中野区社会福祉協議会 地域の居場所一覧」と検索